
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

研究報告・東京外大・AA 研共同利用・共同研究課題・2018-2020 年度・第 2 回研究会
「南アジアにおけるムスリム社会の民族誌的研究」

本年度の第 2 回研究会では、はじめに共同研究会代表者の外川昌彦は、「南アジアの民族誌的研究の課題—民族誌的概念としての「アーリヤ」・「ムレッチャ」・「ヤーヴァナ」」と題して報告した。南アジアの民族誌的研究を植民地期の歴史的背景にさかのぼり、「アーリヤ人」学説を中心に、英領期の民族誌的研究がインド社会の認識や植民地政策に与えた影響、それに対するインド人社会の反応や再編の過程、ムスリム社会民族誌の周辺化の問題など、本研究会における研究課題の検証を行った。また、今後の研究会の計画について議論を行い、参会者からも様々な意見がだされた。

第二報告者の古賀万由里は、2018 年 5 月に刊行された著書『南インドの芸能的儀礼をめぐる民族誌』に基づき、その民族誌的な成果として、ケーララの調査地における民衆儀礼のサンスクリット化や芸能化の問題を論じた。ヒンドゥー教／社会を捉える枠組みが検証され、その後の調査地であるマレーシアでのインド系移民研究の問題へと接続された。本報告では、ディスカッサントとして杉江あい、コメントと質問を行った。

第三報告者で若手研究者の澁谷俊樹は、インド西ベンガル州の民衆儀礼であるガジョン祭の儀礼組織とその歴史的背景について報告した。これまで低カーストの儀礼と見なされたカーリー女神寺院のガジョン儀礼が、英領期の史料にさかのぼって検証され、低カーストの行為者が主体的にかかわる契機や「奇跡の再現」などの主体的な儀礼解釈の可能性が指摘された。本報告では、ディスカッサントとして中谷哲弥が、コメントと質問を行った。

プログラムは、以下の通り。

2018 年度第 2 回研究会

AA 研・共同研究課題「南アジアにおけるムスリム社会の民族誌的研究」

日時：2018 年 3 月 17 日（日）13:00-18:00

場所：AA 研 302 号室

外川昌彦（AA 研所員）

「南アジアの民族誌的研究の課題—民族誌的概念としての「アーリヤ」・「ムレッチャ」・「ヤーヴァナ」」

古賀万由里（開智国際大学）

「ヒンドゥーイムズに関する概念の検討と『南インドの芸能的儀礼をめぐる民族誌』の前後」

杉江あい（東京外国語大学 PD、AA 研共同研究員） ディスカッショント

澁谷俊樹（関東学院大学、AA 研共同研究員）

『一見低カースト的な文化』をめぐって」

中谷哲弥（奈良県立大学、AA 研共同研究員） ディスカッショント